様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：８２６２０
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４３２００３２

研究課題名（和文）近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究―基礎データと画像蓄積のために―

研究課題名（英文）Basic research on ancient and medieval statues of Shiga prefecture: for the accumulation of fundamental data and photos

研究代表者
津田　徹英（TSUDA, Tetsuei）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・企画情報部・室長

研究者番号：００３２１５５５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,200,000円

研究成果の概要（和文）：　滋賀県は奈良県・京都府について国宝・重要文化財を含む古い仏像が存在する。しかし、そのなかには研究を行ううえで必要な基礎データ（法量・品質・構造・保存状態）や画像情報（写真）が限定されるものが多い。この調査・研究では、基礎データ・画像情報のない滋賀県に所在する作例を、地元の教育委員会、博物館、美術館等と連携して行い、得られた基礎データ・写真は１）所蔵者、地元の教育委員会、博物館、美術館、東京文化財研究所、および研究分担者、研究協力者で共有し、併せて、２）地元における文化財の保護・保存活動、博物館・美術館での展示活動に貢献することを目的として実施した。調査は３ヵ年で30件に及んだ。

研究成果の概要（英文）：Shiga prefecture follows Nara and Kyoto prefectures in the number of extant ancient Buddhist sculptures, including those designated as National Treasures and Important Cultural Properties. And yet, today we lack basic data (measurements, materials, composition/construction, condition) and photographs that are the essential tools for the study of many of those sculptures in Shiga prefecture. This survey and study identified those sculptures in Shiga prefecture for which we lack this basic information. The first goal of this study was to share the procured data and photographs with local boards of education, museums, art museums, the NRICPT, related research scholars and those who cooperated with the project. Second, the project aimed to contribute to the local efforts for the preservation and conservation of cultural heritage items, and to contribute to the display activities of local museums. In all, the project surveyed 30 works over the course of three years.

研究分野：日本彫刻史

キーワード：近江　仏像　神像　古代中世　文化財

１．研究開始当初の背景

日本彫刻史研究の基礎は、まず実作例を調査し、法量、形状、品質、構造、保存状況を確認し記録するとともに、基本的な写真画像（像本体の全図正面、両斜側面、両側面、背面、頭部の正面、両斜側面、両側面、像底の合計 13 カット）の撮影を行い、基礎データづくりから始まる。

申請者は公益財団法人出光文化福祉財団の助成を得て『秘仏等非公開作例を中心とする近江古代中世彫像の調査・研究』を立ち上げ、滋賀県在職もしくはゆかりの研究者とともに、地元教育委員会の協力を得て、平成21･22 年の２年にわたって滋賀県下の標記の仏像調査を実施した。その目的は、調査成果を踏まえ地元での仏像を中心とする展覧会開催に繋げることであった。それは平成 23 年度秋の MIHO　MUSEUM・滋賀県立近代美術館・大津市歴史博物館の３館連携特別展「神仏います近江」として結実することとなった。

その過程で、滋賀県下所在の彫刻作例のなかには、比較的よく知られた作例でも基礎データはもとより画像情報が少なく、その現状をかんがみ、継続的な調査を行うことは、地元の教育委員会の文化財保護・保存活動に寄与することはもちろんのこと、博物館・美術館での展示活動にも直結し、東京文化財研究所とデータ共有を行うことで、単なる一地方・地域に留まるものでなく、広く日本彫刻史研究の発展に寄与するとの認識に至った。

２．研究の目的

上述の研究背景を踏まえ、滋賀県下に所在する仏像彫刻のなかで、存在は知られながらも、研究対象とするには基礎データや画像が限定される作例を対象とし、地元の教育委員会、博物館、美術館等と連携して調査･撮影を行い基礎データの蓄積に努め、得られた基礎データは、１)所蔵者、地元の教育委員会、博物館、美術館、東京文化財研究所、および研究分担者、研究協力者で共有するとともに、２）ことに地元における文化財の保護・保存、博物館・美術館等での研究・展示活動に貢献することを目的として実施した。

３．研究の方法

この調査・研究では、基礎データや画像の限られる滋賀県下の古代～中世の彫刻作例を調査・研究の対象とする。まず作例を選定して実査し、法量、形状、品質、構造、保存状況を確認し記録するとともに、基本的な写真画像（像本体の全図正面、両斜側面、両側面、背面、頭部の正面、両斜側面、両側面、像底の合計 13 カット）が既に存在するかどうかを確認のうえ、無いものについては新規に撮影を行う。併せて、調査対象の構造（木寄せ、像内での内刳りの及ぶ範囲など）、像内納入品の有無を確認するために必要に応じてＸ線透過撮影を行った。

４．研究成果

この調査・調査研究によって調書作成を主体とした調査を 17 件に及んで行った（県下所在の作例と、比較検討を行うために近似する他府県所在の関連作例を含む）。また、構造・像内納入品の有無を確認すべくＸ線透過撮影を主体とした調査を 13 件行った。それぞれの実施作例は以下の通り。

（１）調書作成を主体とした調査

①大津市・新知恩院 釈迦涅槃像
　像高 12.8 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
　木造・彫眼

②大津市・西教寺 阿弥陀如来坐像光背飛天
　像高 30.8～47.5 ㎝ 平安時代（12 世紀）
　木造・彫眼

③大津市・園城寺 護法善神立像
　像高 159.8 ㎝ 平安時代（11 世紀）
　木造・彫眼

④大津市・園城寺 不動明王立像（金堂）
　像高 161.1 ㎝ 平安時代（11 世紀）
　木造・彫眼

⑤甲賀市・大池寺 釈迦如来坐像
　像高 282.3 ㎝ 平安時代（12 世紀）
　木造・彫眼

⑥甲賀市・檜尾寺 釈迦如来立像
　像高 127.4 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
　木造・玉眼

⑦野洲市・十輪院地蔵菩薩立像
　像高 112.2 ㎝ 鎌倉時代（14 世紀）
　木造・玉眼

⑧近江八幡市・浄厳院 阿弥陀如来坐像 光背飛天
　像高 36.2～44.0 ㎝ 平安時代（11 世紀）
　木造・彫眼

⑨近江八幡市・浄厳院 釈迦如来立像
　像高 175.0 ㎝ 南北朝時代（14 世紀）
　木造・彫眼

⑩近江八幡市・浄厳院 広誉上人坐像（楼門所在）
　像高 52.7 ㎝ 江戸時代（1613 年銘）
　木造・玉眼

⑪近江八幡市・浄厳院 僧形坐像（楼門所在）
　像高 62.1 ㎝ 室町時代
　木造・玉眼

⑫近江八幡市・島町地蔵堂 地蔵菩薩立像
　像高 178.6 ㎝ 平安時代（9 世紀）
　木造・彫眼

⑬近江八幡市・願成就寺 地蔵菩薩立像（満願寺伝来）
　像高 121.0 ㎝ 平安時代（10 世紀）
　木造・彫眼

⑭近江八幡市・願成就寺 地蔵菩薩立像（「木ノ中地蔵尊」）

像高 161.8 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・彫眼
⑮長浜市・大聖寺 不動明王坐像
像高 135.0 ㎝ 平安時代（11 世紀）
木造・彫眼
⑯長浜市・浄信寺 阿弥陀如来立像
像高 81.3 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
⑰東京国立博物館　吉祥天立像（京都 万願寺・大宮神社伝来）
像高 166.4 ㎝ 平安時代（9～10 世紀）
木造・彫眼
※本像は 3 の園城寺護法善神立像との作風比較を検討するために実施した。

（２）X 線透過撮影を主体とした調査
⑱大津市・園城寺 愛子像（護法善神堂所在）
像高 23.5 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
⑲大津市・園城寺 地蔵菩薩坐像（金堂所在）
像高 41.6 ㎝ 南北朝時代（14 世紀）
木造・玉眼
⑳大津市・西岸寺 阿弥陀如来立像
像高 83.0 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉑大津市・妙盛寺 阿弥陀如来立像
像高 78.2 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉒大津市・妙盛寺 観音菩薩立像
像高 52.2 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉓大津市・妙盛寺 勢至菩薩立像
像高 52.0 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉔大津市・西勝寺　観音菩薩立像
像高 85.2 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉕大津市・浄国寺　阿弥陀如来坐像（阿弥陀三尊像のうち）
像高 52.1 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉖大津市・某寺（寺院名非公開）達磨大師坐像
南北朝時代（14 世紀）
木造・玉眼
㉗大津市・安養寺大日如来坐像
像高 60.0 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
㉘長浜市・ 菅山寺十一面観音菩薩立像
像高 102.8 ㎝ 奈良時代（8 世紀）
木造・彫眼
㉙京都市・青龍寺 勢至菩薩立像（阿弥陀三尊像のうち）
像高 63.0 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
※比叡山内所在像として調査を行った。
㉚京都市・大超寺阿弥陀如来立像
像高 97.5 ㎝ 鎌倉時代（13 世紀）
木造・玉眼
※県下の宋風受容彫刻作例との比較を検討するために実施した。

冒頭で述べるように、この調査・研究では、基礎データや画像の限られる滋賀県下の古代～中世の彫刻作例の調査を行った。X 線透過撮影を併せて行うことで、構造や像内納入品について従来知られることのなかった知見を多く得ることができた。詳細は後掲の調査報告書（５の図書の項参照）に譲るが、ここでは、成果の代表的なものに及んでおきたい。

⑫近江八幡市・島町地蔵堂に伝来した地蔵菩薩立像は平安初期（９世紀）に遡る在地の作例として注目され、幾度となく言及がなされてきた。その多くは頭部について後補もしくは改造の可能性が推測されてきた。しかし X 線透過画像からは、頭部にはほとんど改変が認められず、当初の造形であることが確認できた。今後、この事実を踏まえた再考察が必要となるであろう。

⑯長浜市・浄信寺阿弥陀如来立像は、過去の調査で江戸時代とされたこともあったが、作風とあいまって足枘銘からに快慶の高弟・行快の作で、鎌倉時代・13 世紀前半に遡ることが判明した。後日実施した X 線透過撮影による画像解析により、像内納入品の存在を確認するに至った。所蔵者の深甚の理解を得て、楽浪文化財修理所（大津市）において緩んでいた頸部後ろの釘を取り外し、像内納置の巻子二巻が取り出し別置保管とするとともに、国宝修理装潢師連盟に所属する坂田墨珠堂（大津市）によって一部開封が試みられた。結果、それが当代の著名人を多く含むとみられる「百万遍念仏交名」（仮称）であったことが明らかとなった。その公表・公開は大津市歴史博物館企画展「阿弥陀さま―極楽浄土への誓い」（会期：平成 24 年 10 月 13 日～11 月 25 日）で行われた。

このように X 線透過撮影の仏像彫刻への適用は専ら、構造や像内納入品の有無の確認に有効となる。そのなかで、大津市歴史博物館の要請により実施した ⑲園城寺金堂所在の地蔵菩薩坐像（南北朝時代 14 世紀）について、X 線透過撮影により頭部内の納入品の存在が明らかになった。このことは過日、大津市歴史博物館から新聞発表が行われた（平成 24 年 11 月 9 日付 京都新聞記事ほか）。大津市歴史博物館の発表では、園城寺文書に足利尊氏（1358 年没）が亡くなった折の先例に則り、地蔵菩薩像内に尊氏・嫡男義詮（1367 年没）の髪を籠めて園城寺に納めたという記述があり、それとの関係にも言及がなされた。ただし、納入品の存在は確認できたものの、その詳細を明らかにすることは X 線透過画像解析の限界を超える。そのため、ここではその存在を明らかに

なし得たこと自体に一つの成果があったように考える。推測の当否についての議論は今後の課題であるが、こうした新知見が地元の博物館より発信され、そのことで仏像愛好家や歴史愛好家の関心を惹きつけ、地元の博物館での公開とともに館の活況化にも貢献し得たことも、本調査・研究の所期の目的に適うものであった。なお本像は大津市歴史博物館企画展「三井寺 仏像の美」（会期、平成26年10月11日～11月24日）で改めて公開され、展示図録には本科研で行ったX線透過撮影画像を掲載した。

⑳大津市・西岸寺阿弥陀如来立像（鎌倉時代13世紀）は、X線透過画像の解析により、胸部正中に「圓慶」の銘が存在することが確認できた。X線透過画像において文字が浮かび上がった(不透過を示した）ことにより、銘は墨書ではなく鉱物系の顔料（丹もしくは朱か）で書かれことが推察されるが、行快作とも一部では推定がなされてきた西岸寺像をめぐる新たな研究の地平が拓かれることになったといえよう。

このほか、長浜市教育委員会との共同で調査・撮影を行った ⑲大聖寺不動明王坐像(平安時代11世紀)については、その成果を踏まえて平成25年3月27日付で長浜市指定文化財となった。

また、近江八幡市の指定文化財である ⑨浄厳院釈迦如来立像は当地に所在した慈恩寺旧本尊であり、近江国守護・佐々木氏頼（1326～70）発願になることが史料との照合により明らかとなったが、調査時に頭部落下の危機にあることが判明し、修理の緊急性が痛感された。市の文化財担当者と協議・連携しつつ、調査時の知見を踏まえて公益財団法人朝日新聞文化財団への文化財修理助成申請を行い、採択を得て、平成27年4月より、二年の工期で文化財修理を行うことが決定している。

これらのことがらは、地元の文化財の保護・保存、博物館・美術館等での研究・展示に貢献するという所期の目的に十分適合するばかりでなく、科研申請時の課題として果たされた研究成果の国民への周知・還元ということについても、地元への成果還元ということを介しつつ、その責務を果たし得たように考える。

さらに、本調査・研究にあって特筆しておきたいのは、これまで高所にあるため間近で眺めることが難しかった、⑧近江八幡市・浄厳院阿弥陀如来坐像、および ②大津市・西教寺阿弥陀如来坐像（ともに平安時代の丈六像、前者は11世紀、後者は12世紀）に附属する飛天光背について、両寺院当局の理解を得て、周囲の荘厳具を可能な限り取り払い、足場を組み上げて、間近で熟覧と撮影の機会を持ち得た。このような大がかりな調査はその周到な準備を含めて、本調査・研究がおそらく最初のことであり、ことに画像蓄積において大きな収穫を持ち得た。このうち、②西教寺阿弥陀如来坐像の光背飛天の画像は大津市歴史博物館企画展「阿弥陀さま―極楽浄土への誓い」（会期、平成24年10月13日～11月25日）の会場においてパネル展示を行うとともに、光背付属の化仏12軀のうち4軀が出陳され公開された。

⑦野洲市十輪院本尊の地蔵菩薩立像は、これまで江戸時代という認識に留まり、ほとんど注目されることがなかった。しかし今回の調査により鎌倉時代末期（14世紀）に遡ることが確認できた。彩色もほぼ当初の極彩色をそのまま伝えており、その作風はこれまで知られた滋賀県下の同時代の作例に類を求め難い点で貴重な存在である。今後、調査成果を踏まえての考究を期待したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２　件）
①津田徹英、飛天光背の展開、芸術学、査読有、17号、2014年、pp3～25、三田芸術学会
②津田徹英、研究資料　滋賀・菅山寺蔵十一面観音菩薩立像、美術研究、査読有、414号、2015年、pp.19～26、東京文化財研究所

〔学会発表〕（計　１　件）
①津田徹英「平安後期の飛天光背の展開をめぐって―滋賀・浄厳院像、同・西教寺像の実査を踏まえて―」美術史学会東支部例会、2013年11月16日、慶應義塾大学三田キャンパス
http://www.bijutsushi.jp/pdf-files/reikai-youshi/2013_11_16_higashi_02_tsuda.pdf

〔図書〕（計　１　件）
①津田徹英編、近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究―基礎データと画像蓄積のために―（課題番号24320032）平成24年度～平成26年度 基盤研究（B）一般　成果報告書、236頁、2015年、東京文化財研究所

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
東京文化財研究所企画情報部 2014 年 7 月研究会
http://www.tobunken.go.jp/japanese/katudo/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
津田　徹英（TSUDA, Tetsuei）
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・企画情報部・室長
研究者番号：00321555

(2)研究分担者
皿井　舞（SARAI, Mai）
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・企画情報部・研究員
研究者番号： 80392546

井上 一稔（INOUE, Kazutoshi）
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：40193578

岩田 茂樹（IWATA, Shigeki）
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他の部局等・その他
研究者番号：20321622

(4)研究協力者
中村　佳史（NAKAMURA, Yoshifumi）
国立情報学研究所・大学共同利用機関等の部局等・研究員
研究者番号：10462186